言葉の玉緒

七

ホ 2
543
7止

帝国図書館
第543
巻 7

詞瓊綸七之巻

古風の部

○芳紫素ふようて。古風の言をよもしりがゝ。俤なづうひをバくそゝ
はちぶそ忍れど。てふをはのゝくハたえてさゝぐ世ぞさゝる名ふ言もさゝぬ須も。と
このゝ。ざるゝのゝ世をあ不かるはちるハうれかるづうひを。定まれるのゝとおれバ。み
づうゝはちかゝうりてゝゝろゝえるれまるあくハをくゝして。ゝで歩るれふゝたふ
うをるうゝとれようゝうはうはちるをゝ。をれでいとたやとれをてふをはくみる
定まれるゝのひの者てゝをゝゝさゝる時々あゝゝしをれど我のはちゝまと
をゝきまゝさゝるゝゝるやをかゝゝ。さゝる名ふをくゝ後の言るハ大うゝゝ言の紫
のをんゝるゝゝゝゝづうゝ呂ひゆゝせゝる人も程るゝゝくゝ。ゝとれバあ

帝国図書館
東京文庫

やまとことばのきはめ

やまとことばのきはめ。

やまとことばのきはめ。

やまとことばのきはめ。

〜ゝる。後の格ふとゞめり。但〜これも多紫ハ例あれどもバ下ふ出せり上つ代の一つの
格とゝるべし。又推古。法隆聖德太子の作ふ所おやゝ〜に汝とあるとを先やとゝる
ゝ。汝親ゝ〜ふゝりたりやとゝつふゝとゝるれバ。後世の格ゝ〜バ。ゝるとをんやゝ
ゝべきをゝ。先やとゝるハ異し。但〜此格も万葉ハ結ふゝ〜ゝるとバ。下に出せり古
の格ゝゝべ〜。後のゝゝとし倒をあゝ。在きまゝ二ゝせゝ人糸てまゝ〜めや此ゝ人ゝ。ゝべ
を先やをゝめとゞ古の糸ふゝ。係氏をゝゝ結ゝ月新ゝゝとゝゝ
ゝ結ふゝ〜ゝゝ。古の三首をおきてハ。ゝ〜ゝ定まれる格のごゝ〜ゝゝ。ゝ〜
ゝゝ。ゝ〜ゝ。ゝゝれハ上つ代ゝ〜ゝ。ゝ〜ゝ定まりゝゝゝ。ゝ〜ゝ。古風
をよまん人もいでゝてふをはをゝをゝて。ハ有べき。そのゝとゝ〜ゝゝ。ゝ〜ゝ先
をゝ〜ゝゝゝゝゝ。ふゝをゝゝゝ。古の糸をバ見ゝ先ゝのひあゝ
ゝ〜ゝゝ。ゝ〜ゝ。

き紙ゝいひゝゝゝゝ〜〜異ゝゝゝゝゝ

五ノ十三

たゝ〳〵姫神のみてゝ結おつゝまとみうしせりいゝをゐれんき

吉

ことハ上ゐ〳〵ゐゐまゝ〳〵といへまバ。ゐ〳〵と結ぶべきを。ゐきゝといふハゐゐうゐゐゐ
ゐまゐ。志を吉に誤まる也。まゐハいとよゝ似ゝゐ

十四ノ十九

姉をこそこうひゐゐふゐゐゐゐゐ引乃格ひべゐ結ゐまゐゐをゐ

へる

ことハ上ふゐゐのや何などのてふをゐれバ。ゐり〳〵と結ぶべき格じ。結まゐ〳〵といひ
てハゐゐゐゐゐゐ。ゐといふべきゐゐ。後世ふもけ例あり。二の丸変格のゐゐ流

十九ノ十六

ゐゐ〳〵ゐ結みがゐ〳〵ゐ結ゐ〳〵ゐんぢゐふゐゐゐゐゐんバいを「ゐ」ゐゐゐ

ゐゐハかゐ〳〵ゐいきゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ〳〵といふ格じゐ〳〵ハ流字ハ
理をゐのゐやまゐゐゐハゐ〳〵ぢゐゐや

十一ノ十三

秋田かゐゐゐゐを結ゐゐ旦ゐをれでゐゐゐで来ゐ。嵐おゐゐゐ

ゐ

ゐ結ゐの例を他のゐゐに考ゐるにいづゐゐゐ考ゐゐおゐゐゐゐゐゐゐバゐゐゐふゐゐ
〳〵を脱せゐゐゐゐ〳〵。ゐゐゐといへでゐゐゐハ結ゐゐ〳〵

二十ノ十八

かゐ〳〵ゐゐゐゐゐゐゐゐゐつきなくゐ〳〵をおきてゐき

ぬ

やゐゐふゐ〳〵

ことハ上ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

をみよ　見そゲーヨチまろ〻妹がゐよびてヨを祭〜〜をくおとつゐゐあ次。或本
ゐ〻てのせ〻ゐ。ゐくゐのゐの下のゐハ。係〻ゐ詩をまバ。ゐまハよゐ〜。又ハ中ゐ世の。ゐ〻ふ。
あを祭〜をくよ。又世の中を世ナ三のひ〻にあを祭〜ゐ〻。ゐ。ゐゐ〻ゐ〻ゐ。
よ。又ゐハ係〻ゐ詩をまバよゐ〜。世ゐくハゐゐをつゐ光〜ゐゐ。さそゐ〻ゐ〻ふ
ゐくといひて。下になよゐをゐゐふ詩を係〻ゐを
以てゐ。ゐゐゐといふゐゐ〜ゐかぬゐをさゐゐべきし

十八ノ　ほろ〻ぎていと絡ときくハたちぢゐ花ちるゆふきゐ花ゐよ　ひゐ
ゐまを上ユゐのやゐのてふをゐをゐれば
ひゐゐ絡ぢゐゐよゐ〜ゐ〻ぢ

十一ノ　光ぢ〻に高絡ゐんゐぞゐぞゐるまの弓ゐ〻方ゐまゐもよかき　つま　礼
ゐまハ上ユゐゐといひて。つまと絡ぢ。り〜ハ禮ハ類ゐまゐの係ゐまバ
ゐ〻ぢゐ。六帖ユハ二の名を。ゐゐんとゐゐゐ。ゐ〻て〜ゐ

十八ノ　ほゐ　ゐみの世ゐ人。ゐとゐくを。ゐとゐゐやゐ〻ゐゐゐゐゐゐ
身ゐゐゐ。ぢゐふ天の系ふゐ〻ゐふつゐひつぎふ　ゐん
ゐまハ上ユ。ゐゐといゐまぢ〜ゐて。ゐまゐゐ〻ゐゐ。但〜上ふ
ゐ〻ゐ〻ゐ詩ゐゐ。ゐまゐに毎ふ例ゐ。五の世ゐの約ふ出せ。

十七ノ　なゐゐ〻ゐゐゐゐのゐ〻ゐおといひまゐ〻あぐふいのちをたが世め　ふ　ゐま
ゐ絡ゐハいふいゐまゐ。ゐゐのまゐ絡ぢ〜。上ゐゐゐがといひて。ゐまと絡ぢゐゐ
いゐぢ。ゐ〻ハゐまハ絡ゐゐを見ハ。ゐまゐゐ。ゐまをゐゐ〻ぢ。ゐ〻ゐ〻ゐ

二十ノ　ほゐ〻ぎ決ますげ。ゐく絡ゐいふせば系門をぢ　ぢ　かゐ〻ゐ法ぐまで
ゐまハ上ユいふゐゐのまバ。ゐ〻ぢゐんといまぢハゐを八ゐをさハひゐゐきゐ〻ゐ。
ゐ〻ぢ〜といゐぢ。ゐ〻ゐに。ゐ〻ひて。ゐをゐをゐをゐ〻ゐふをべきふゐ〻ぢ

二十ノ　かゐこれやみこかぐゐ〻ゐ月ゆゐ　や　ゐへがゐひゐよをいむを　ゐて
ゐ〻ゐハやゐ〻ゐゐむをび
なゐ。ゐゐ〻

十二ノ　ゐ〻ふまてかまゐ〻ゐ世をみまゐはゐゐ〻ゐゐゐゐゐん　ゐと
ゐまを上ゐやゐゐひて。ゐ〻ゐゐ
ゐゐゐ〻ゐ。ゐまのゐゐゐゐゐゐ〻ゐ

十　ゐの世ゐのゐ〻ぢつをゐれぢゐゐゐ　ゐと　ちゐみぢれゐゐこの川ぢ　ゐと
ゐ〻ゐひて。ゐゐと二つをゐ
ゐ〻ゐ〻ゐのひぢ〻

十二ノ　廿九　茅こ[illegible]ハそりて かへ[illegible]　かゑ　あ[illegible]　かゑ　こ[illegible]

仝かへふ二つゝに飼早ゝ[illegible]ハきハ[illegible]て[illegible]なべ[illegible]ふゝ
ひてハてふをはゝのゝ[illegible]ハ嘗字[illegible]ふ[illegible]て二つ[illegible]ふ[illegible]ひ[illegible]ゝ[illegible]べきゝ[illegible]
とまれゝ[illegible]字[illegible]ハ[illegible]ひ[illegible]ゝ[illegible]れど
[illegible]ゝ今の[illegible]に[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]

上の件あゝせて二十首ゝ中に字の濁ある[illegible]の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

ふきとく弦をもらめや。琴をむきとわをみんらめや。

一十七 いうさゑりおりゝきめうゑ。

三十 丞右 いうさまに思ひきめかとうゑ

四十 丞七 いうぞうりおりひきめうゑ。琴とへ乃まゝかとまりいをふえてこゝ

件のうぢとんらんきんゝいふべきゝをめらめをえといふたがて

ふ似ゝゑぞと。条中にかゝせおゝく倒れゝ。又上ゝ出るごゝ。日

本紀のうゑとえゝ。後のうたもこきゝれ倒ゝう。

四十 正八 うゑさみをみをけゝうがいゝふ杉ゑ梅ゑ一つゝうゝをふをがゝき

二十 ふ十九 うゝをゝしく思ゝとゝるうゝ宿の梅は花をぐるまでえゝをあびゝるゝ

七 四十二 むづさの妹ゝ玉うゝとゝゝしゝ引乃きよれゝ山べゝ。まけばゝのゝゝる

十 ふ十七 秋の夜は月うゝとゝ思ゝをゝがゝるゝをぐゝもえゝゆばゝゝさゝひゝき

ゝ思ゝゝのかゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。

十六ノ十七　たちもとぐ　かく　て　つる　柏　おきまつが　ゆるるものそうと　結ぶ　ふつ　し

日四　るに　て　ふりぐ　かく　ゐ　う

あるゝ　結　て　も　ハ　鶴　ゐ　ゐ　て　結ぶ　根　て　ゆ　ゝ　て

あるゆ　ゐ　ゝ　ゆ　下　の　て　ふ　を　は　ふ　か　ゝ　び

十八ノ四一　ゐ　ゝ　結　を　と　お　き　ば　ふ　ゐ　え　て　あ　る　藤　の　り　と　し　い　ま　て　を　ハ　ま　べ　る　き

日四一六　か　て　ゝ　ま　に　ゐ　て　を　り　ゆ　ふ　る　ゐ　ひ　き　結　白　結　信　乃　ゐ　ふ　ゐ　に　も　な　き

十九ノ四　お　ゐ　ゐ　ま　に　ゆ　る　妹　と　け　ゝ　ゐ　て　を　東　結　き　き　と　ゐ　ゆ　ゝ　る　べ　き

十七ノ四一六　野　を　ゑ　ゐ　ゐ　茅　て　を　が　き　ゐ

十七ノ四七　ゆ　ふ　と　人　あ　ゝ　ゆ　ゐ　ゐ　ゐ　の　も　ゝ　大　き　ど　お　の　が　毒　て　を　と　こ　め　づ　ゝ　ま　き

こ　ゆ　ゐ　り　ハ　て　を　と　か　て　て　を　。　き　ゝ　結　づ　り　。　此　例　日　本　紀　と　と　二　首　に　り　て　。　上　る　に　ぎ　る

て　。　を　の　ゑ　ゝ　り　の　根　し　。　を　ま　ゐ　り　こ　ま　ゐ　ゐ　け　根　を　ゝ

一十一　い　ゐ　ゝ　へ　ゐ　を　ゐ　ふ　あ　き　て　を　う　せ　ま　と　毒　を　に　ゝ　ま　ゐ　ふ　ら　ゝ　き

六ノ四七　ら　べ　ゝ　て　を　ゐ　る　人　お　ど　ふ　か　ゐ　り　つ　ぎ　こ　ぬ　び　き　ゝ　し　き

そ　に　ら　ゝ　を　し　と　結　ぶ　ハ　つ　ま　の　根　し　。　又　を　の　ま　に　の　ゐ　ゝ　十　八　の　ち　八　の　ひ　ゝ　ま　ど　ぶ　て　を　ゝ

か　て　て　。　き　ゝ　し　と　。　と　を　を　て　も　結　べ　り　。　結　る　に　を　ゆ　ゐ　ゐ　ゐ　ま　ま　ま

十九ノ 巻三の 六八 [あるか]—かと 此ゐ十二句 そぐ先もえぎせ う〜

こと是も同じく〜行〜かとして望てうぶ[illegible]えぎのぎへうけてハえべうぶ

○右二首の[illegible]ハ望て[illegible]辞を是を切ぎ[illegible]ぎ[illegible]おと〜すして。さて[illegible]にて桃の結び

辞ハ[illegible]て。やとらひ又ぎといつるぐ。よく せびぐまぎれぬべ〜。今の[illegible]の人。せ[illegible]をよま

んふ[illegible]ふ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]て。てふをを[illegible]をみぐりにを[illegible]あれ。[illegible]

ふを[illegible]二る六十句を[illegible]ぎ[illegible]ハ上のてふを[illegible]て。切〜[illegible]て。ものをまれ結び辞を[illegible]

三ノ 四十 巻三の いゐ さゐに思ひをまとゐ—ゐ〜

三ノ 四十四 巻三の いゐ さるふ思ひ者先かと—ゐ〜

これらも上の行〜かと同じとて。加[illegible]て切[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]の一

結びおとぐなり

○右三の結一つの結の句

三ノ 二十 ゐまづ〜ふ八日ゐ—ぬと ゐ〜 三ノ 二十四 夕やとゐかろまゐ—ぬと ゐ〜

三ノ 四十八 久〜ゐのあをまゐし—ぬと ゐ〜 三ノ 四十八 うちあびきこやゐ—ぬと ゐ〜

五ノ 七 むさゐ〜ふへのちゐ—ぬと ゐ〜 五ノ 九 ちぐみ〜よゐ〜やゐ—つと ゐ〜

十七ノ 四十七 いゐ〜ふる〜やゐ—つと ゐ〜 十七ノ 四十七 春雨のゐゐ〜ふ—ゐと ゐ〜

三ノ 四十四 大雪はみぐゐてゐ—ゐと ゐ〜 十七ノ 四十七 かゐ〜ゐ年を忘ぶゐ—ゐと ゐ〜

十八ノ 二十 こがゐゐゐとゐゐ—ゐと ゐ〜 十八ノ 二十 かゐ〜ゐとのゐ〜結へ—ゐと ゐ〜

十九ノ 十三 かゐ〜ゐつぎ松ゐ〜へゐ〜ゐ—ゐと ゐ〜

仲のゐゐ〜ゐ。上ゐ〜ゐ〜ゐとゐ〜ゐ。ゐ〜ゐ〜ゐ〜切ゐ〜ゐ。又

五ノ 四十 まきゐ〜かひふつゐ八ゐれまかゐいま—せ ゐ〜 三ノ 四十 結ゐつ〜かゐ〜びいま—せ ゐ〜

ゐ〜ゐ紀上 八ゐの長歌 よゐ〜ひゐ〜ゐかよハ—せ ゐ〜

ゐ〜ゐも上ふゐ〜ゐ〜ゐ。せゐといひゐ切ゐ。上のゐゐ同じ結しけゐせハ是巻巻

のゐゐに左て。本結他へ移ゐ除ふいふ。一つの結ゐて。乃へをを加へて。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。

こへはよく　はゆるし。ちふりしこの　[illegible]

[illegible]

三ノ　ふ十七　あさぢうへいまをもぐみうゑもぎもぎ　[つと]　たち〜ひともな〜

こはあり。けふとつはとだとだりじをかへて　はばよくきる

○同　来てふをはの訓を　[illegible]

[illegible]

或は上下共に異なり。又無しとあるハ。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]くるりゆるると例べきし。数多字[illegible]ぬ[illegible]
よむべきそ[illegible]ぴ[illegible]おも[illegible]あるうり

七ノ四十 [illegible]ちゝ[illegible]ばおきゆさみ 胥 みやこより[illegible]へつうふ[illegible]りうそ[illegible]をきゆみう

こゝハ上うそ[illegible]をれを。畳字[illegible]知と例るハ[illegible]ぐ[illegible]し。
[illegible]むとよむべし

九ノ四十 [illegible]ますらをゆきのまくみふ[illegible]ふ 偃有 コヤモル フシタル

此偃有ハ上のひびを[illegible]きのまくふとのべ[illegible]ときハ[illegible]ふ[illegible]おごや[illegible]よむべ[illegible]
上のを。[illegible]に偃有と[illegible]
[illegible]へかゝるときハ[illegible]ふ[illegible]ごやせ[illegible]と例べ

十ノ十二 [illegible]ゝ[illegible]紀の大[illegible]人[illegible]いとまつきや梅をかざして[illegible]ゝ[illegible] 集有 ツドヘル

こゝハ上うやとあるハ。つどへ[illegible]と例るハかるハ。つどへると例べし。
此[illegible]のやゝ[illegible]の[illegible]ぴの書やの[illegible]の[illegible]

十二ノ三 [illegible]ゝ[illegible]ゆいそ[illegible]のりそふ[illegible]ゝ[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

日ごとに鮮とぞうひざ敷ぐ社右衛門かぎりをたうくさうりぬさ出
て。たぐひをとうち素色さうせりまとぐ此鮮ぐ〳〵。たべてて所を
その年未れらくのひ和ってハ。法の社生まるふまとるうとるし。
ひをつくべ〳〵此鮮ぐとまたり〳〵尺て今よまむ与社て所をさを
みぐりにして。りやまるうとれる。

一 ち〳〵みくれ社つみ井のうくまびてりとうみやとうきハかう
二 久うくと法あをとうぐりぐ〳〵みこの法門のりまくを
六 ぬるさとのりをクハあまぐまふう〳〵社虎ちをうにしよう
七 とぐせとをへづちゆうれとうに竹のをぐひふ社〳〵今〳〵やー

八 秋〳〵もうていくうとりうくひハ社稼ぎ軟をの鹿をたすくちむ〳〵
二十 うふうぐれ社しやしをあのぐん先乃先〳〵みべまれあゆべ〳〵
三 れく山のりを年をげを拾ふうをてむまびー〳〵ふまとれう稼つ
四 りくぬのハ十うぐ川のりぐうまふりさうふ法のゆく〳〵ふうぐど
五 梅のををちう〳〵をみまう軍社作のをやー〳〵うぐひをまく
七 まぐまう〳〵井社べゆ年ぐ〳〵ぐ法ふまをんをたりくほうく
十又 軟ぐ〳〵きうぐでうまとばむこの浦の塩干社りとふ〳〵ぐ軟うまと
二十 四月えこうえうちき軍まで法うりけうえぐちうをうすゆまうぐ
四 りのをうぐ〳〵をむうをがもやいぐ社てみ川らの中にあへまうまく
十 軟べうをばをぐ〳〵社虎咲り年をうぐまつ秋をちうぐく〳〵

五　天地乃そとに久〳〵いひつぎとけり〳〵みゝ[illegible]

二　ゐら〳〵ぎみもろはゝ山のさかうづ〳〵さゝびつゝ[illegible]かてま[illegible]

十一　きのふえてのちをそゝひひぐ[illegible]ときとこがあたくつぎそえまゝ[illegible]

七　まをかゝはみるとのさを[illegible]ゝそや書よびゝそ〳〵へあちゝぞく

四　ひちんよハゝ川をあゝんを[illegible]なをとゝうそのようひきて[illegible]ゝのをけき

十七　嘉永〳〵てゆひて〳〵[illegible]をと[illegible]ときさみぎゝゝふゝゝゝをたきゝゝゝゝん

十八　秋の夜を[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

二十 うゝめゝく志 [そ]ある宮ゝ梅の花をゞまでえしめびをけるゝ

又ゝぢ花のをゝ

二 言ゝ知るゝゝゞ日ゝ浦ゝ波ゝ美世ゝ[そ]ゝ出ゝゝさゝゝ浦のゝゝや [そ]

三 かくのゝしにまゝるゝ地を萩の花ゝきゝゝいゝりやゝゝひゝゝきゝゝ [そ]

十 秋萩乃花聖ゝ折ゝ[そ]ゝ

雅光ゝ公ゝ[そ]ゝ

○[そ]よ

かゝゝゝまゝゝよ 七

ゝゝゝ

十七　春花のいつろふまぞふかひろひよばゝ月日よみつゝいとまゝ〔ぞ〕

十八　きりぎりすこよひのまんかうぐぎすあきんあゝゝ鳴くゝん〔ぞ〕

かゝのごゝんぞとづけいてるを。古かゝ系よりこゝるゝふゝゝぞ

○そぞ〔　〕

六　さゝりゝゝりゝ系〔そぞ〕こゝるゝゝ　日〔そぞ〕まかるゝ

十二　あひとゝぞ〔そぞ〕ゝませどもかゝゝゝゝゝゝ〔そぞ〕こゝるゝゝがゝゝゝ

〔　〕ぞゝゝゝきふゝ。古ゝ系よりあるゝゝゝゝゝず

○とぞ〔　〕

二　玉藻〔とぞ〕ゝゝゝれぞあるゝ川藻〔とぞ〕かゝれぞゝゝゝ

四　よきゝゝ〔とぞ〕ゝきゝらし

十　ゝゝゝゝゝゝ

又　いづくよりきたりし　ぞ　まるひふりとあかつきてやどいたるさぬ

十　ものまちて　秋をきくらぬ姉とうれあふどこうと　ぞ　ゑもとうぞ

十三　年をくるまでふも人をうるとうふをいづのまふ　ぞ　をつぐ　をりうる

同　いうるや人のよゆゑ　ぞ　かよひをも　あごうと

十四　柳こそきもバうえたれよの人乃ものんをいふせよと　ぞ

同　され　ぞ　この屋はこ乃あそぶ　あふをにうをせとのりていうふ戸を

十七　ほくぎとをふのこうろ　ぞ　ゑちばるはおや　月　きおきそよむる

十八　いふせる布等れうう　ぞ　をもうにえせんと　ゑ　ゑ　ひる

右の哥はいづれも。よ伝をどいふ詞をて。ぞ。て切とうるぶ。はるを。切とぞ。これをまま
よりこうるこのあるべ。必かとうるべき哥ぞ。といつるのもしうるあふ下のむをべも。は上の伝を
をうをて。あ結を結ぶ。ゑ。れ雄男をを結大ぶうふ。ぞ大まへかまを。とうを。
をを日本紀あ。ゑ。ろこのりあるまへよまをとを。ことをりて。ぞ。はかるをふ。

を考べし。又さいぞ。後ふのうふ。ぞ中人をそみりをのかうちせうをこうぶ
らひよるや。又葉ふに。ぞよれぞてようん。ゑるも皆月じて。かふをふぞ。

の

〇とふをふの

ふ　ほんつちの　の　ととふ久しらひつぎとけうみむをうきとし

八　かうぎ次きおきうよりとかう系　の　ととのやうはまを

しうるけのこと。ふをひてはゆ。葉ゑ系をちかうのこれもこるべ。ゑ波のとをまや
ゑも立ゑうう。又歌宮を考のうとにしるかをびこをうひてうろひよろ

ちなう八はも歌考のうとに立を出て

〇一つ乃の

六　ふつてけあれをん時　の　ちうむ咲ちん時。ゑ

十三　ゑ　ゑ出乃よろしきと　の　いでうろ乃ゑ。ゑにこ

やうにいるのゆ。ゑうるれかまうあるを

○一つ乃の

廿三　ふがせこゞゆきのまゝ〳〵

廿三　まゝすゝをのゆきのをとみゝ　廿四　父母がなゝのまゝ〳〵

又

十八　ゆく春はきぬてゝく春をまれでき〳〵の　廿四　かゝ〳〵もゝ

二十　心ゑんをばゑの　ゝ〳〵く川ゑをだゑの　さやき〳〵ゝ

○一つ乃の

三　いな〳〵いへどもひる志ゞ　の　がゝひごゝろ　ひごろきゝどて　ゝ　ゝ

十八　ゝをあざゝる　ゝ　ゝ　の　とかく〳〵ゝを　柳　かづゝきたゆ〳〵　ゝのゝびめ

十九　心のゞをゝ〳〵ゝすひの心をゝゆゝ月八せゝ　の　が　ゝ　ゝ　ゝ

ゝをゝ〳〵のゝゞ　ゝをゝ　ゝ　ゝ　

九　ゆづりはを人もあ［とや］。とぬき衣を新ハやらあしびのちるしに

九　あやろふちろ法ろておりてんそのろあ［とや］。とろ

仲のへやきやハ。ミあとのうへへかて緋そ。おもへやハ。せふろし思ひハ世ぞといふ

きぞ。ちるきやハ。ふちろくは。ちをハせぞといふとろう。俗もこ日ふあぞ。へちぞ。

下に。をの係ちるか用ど　仲板をちを系ちりこちろにとをて。ぴの表のやの

ゆせりの仲せり

九　ちろ〜へろ〜ふをゆ［きや］かてごろを嘉ちあ〜ぬ。ふろ〜ちむ人

四　赤ちひを人ふちろ〜［せや］ゐろ〜ぎゐきゆけつと美あ〜ろゆ。

日　志聖ち俗乃よぞちつぎ格んゆとおも［へや］いもゞ美あ〜ろあ。

十二　みどりごちふあをろをハりむ〜いへ乳の［めや］ろがおり〜ろむんん

云　陽の系ろなくゆ〜ろハわがあ〜蝶ふらふ［きや］時ちかをなく

七　ちをみてばへゆる後乃まあ［とや］ろ〜ちく〜ねくちあ〜くのあき

七　勢ちふろ〜ちをだむろる蝶の山ちとゆる［せや］。ちうちく〜ちちそ。

十八　安中の人のあゞ紀ちおおちぬ系ろ一の［とや］。ちく〜やろ系せ〜んん

こちろ〜ハ生やの上ふぞを異乃ち倒そ。ゆきやハ。ゆとぞや。ち〜せやハ。ち〜せぞや。ぴへや

ぴへぞや。ろちちやハ。ふちぞや。し俗もちおは日ど。下に。を係ちも日ど。そ仲板

ハづとと下ハやの俗びそてちゞ。ちゞ。ちろ。集中ふ此板のうち。ちやを時ふおろ。ちろ。

古ろ系ちろこちろの系ちとたちり〜ぴの表やの紗ふ出ちゞぬ〜

二　ちゞが志のちへの一系とながちろるんもあ［とや］とろ

六　ゐ藤が系幸志のり俗ふ仲ちちる鶴ふ〜ちとの［とや］。表ハざんん

七　いちろ〜ち小望ゆ秋津ふ系ちろ系ちる系ふ〜ちとあ［とや］時をきんん

あちろ〜ハ〜ぞあとと形ふちちてやハ係る秋品のやし。俗ひよ仲〜び。日本紀衣亜

板のちり。ちろ〜へちもあへやとちし〜仲ちも日ど板し。又後のあちとし仲板有

ちべてちのきやせやてやへやきやちちやちちゞび。今の本ハ訓を誤りて。

念哉と云ふ。ちりふやとよみ。有哉と云ふを仲りやあるやちどよめるたぐ

ぶあり。よくてふきはの橋を西へて改むべし。きべくかてふとぶひ。一
ゆゝの河乃張り者。一首はこゝにきもいのやまることし。おろそふきべくべ。

○もや

七　ひふみ社海浪がこゝとゆゑまきりろ　もや　へうんおぐとはそしふ

九　たくまのてゝ　もや　こひんまこゝしゆゑぐゝ心洲ゑろこえいきぐ

こゝまくのえやきたまくむとやとまきのとそきとあるなれど。後のあふみは変ちれぬ
あるゆゑ世世りの又古まり紀宗形阪のふふみまきりぐこもや。俊建命の歌何みあづまくや。
同代分ふきのあるもや。日本紀元義者　形原人の初まく稀やくもや　みくもや。雄略天皇に。
ゆゝくたくこもやひりくたくこもれやゆゝ。又仁賢者の初まあつまもやあどりるもやそ。
陪の陪りふ立て。鉄臭の鉢む。ろのたゆ賢者ゆる主。何怪矣とかゆ。さて此もやハ万葉に
そるくぜ。後のふりゝ一つ二つきぜのきのやの初まゆせり

○ともや

二　ともハ　ともや　やきみとそそりみお人乃えがてにもふやきこそそ

ことハかゝまりよおどのりよと同じくて。親ひのやまハひつゝぜ。ちまり紀所宗阪あり。
ぬでゆくゝとや。又おきめりや。日本紀皇極者を後まれまくゝ後りやをど者同じ

○やも

三　ちかくて衣　やも　いつくゝ　ちくゝ　こもしゆゑ心をてきふゝを
これをくゝ親ひのやまとの係
くるのくあり

三　こりくのちゆせをとめゝ　やも　にまりるふみゝとてりりくいを

四　うつきくもよ　やも　ゆくゝ　あふをとり妹よりのそぎて見ゝちゆ孫ん

五　をのこ　やも　むかくかつべき　第代りかくりつぐべくゝをたくぜて
ちくゝを阪ゝくなゝ
やもの三形り

一　秋ちゝ乃あをつる妹をふりつゝば人言ゆゑみ見ゝがちひ矣　やも

四　ふの妹をつるをにより　やも　むをべきぜ有て後ふもりのそぎ矣　やも

二十　あやをもたれば出川を　そしらえぬうと　ふかくうんあと　はきを　□　やを

十九　身にありて一夜妹よ　のふ　者　を　森に　まきうて　あり　あり　光　□　やを

七　春木　柱　はる　松　くい　いさく　をそう　かう　四の　とめと　はる　ありを　絶　□　やを

こまつの　とひ　ぴん　とらぶべき　ぬを。　絶　とひて。　やへ　はぐけ　うを　こ　はう　こ　くう　了　静　し。

此　板　よ。　絶　しよ　むべき　そう　を。　今　なに　き　はう　て。　ん　と　洲　る　ぬ　り。　ぴ　し　文　む　ぶ　し

○　右の　かを　へ　やを　きや　と　せや　を　ぎ　といつる　歌　き　上　ふ　ぬ　き　る

□

○　きく　ぶや　□

二　はま　と　つ　ば　つ　て　た　ぶ　海　し　はは　ふ　ま　の　う　人　の　う　も　は　る　を　ふ　　きく　ぶや

五　梅　ぶ　はま　る　き　は　く　き　を　抑　し　か　げ　ら　ふ　を　べ　く　あ　る　を　　きく　ぶや

六　伯　耆　女　乃　はる　る　本　物　花　み　う　　賢　の　洲　の　み　る　ふ　さ　は　を　　きく　ぶや

八　世　花　の　一　よ　は　う　う　は　り　く　さ　の　え　り　ち　が　ま　て　き　く　え　　きく　ぶや

加

一　つ　ご　は　う　う　に　ま　の　る　を　う　ん　を　ま　あ　う　う　ま　蒙　の　ま　を　ふ　は　う　う　ん　う

九　衣　を　は　ぎ　の　ほ　べ　を　き　ま　ま　う　わ　を　し　う　ち　ぬ　う　こ　ま　を　ま　ら　ん　う

一　ち　ん　さ　る　う　い　う　ご　の　は　べ　ま　ご　ま　は　よ　は　の　う　ん　う　う　き　は　ま　は

八　え　ま　け　て　は　き　う　る　え　ま　ど　久　う　こ　は　ま　う　う　ち　ぬ　う　ば　う　う　ひ　ま　ん　う

二十　き　は　う　　は　さ　へ　ぬ　を　て　こ　ぐ　う　ま　の　か　ー　う　る　は　ふ　を　よ　ま　け　ま　ん　う

かく　の　ぶく　ー。　ら　ん　う　ま　ん　う　ま　ま　ま

四　佐保川のさゝ波しぬで山陰のうる夜を君かもとゆく。　ぬう

七　やゝ秋風そよぐ夕べ花すゝきのさいつゝかと見まつ月もとやもてう　ぬう

此ふぢびのぬうハ。ふぢぬうハふるとうぢぬうハあきうぢ。てうぬうハてうぢ。ゝゝ
ふゝとゝ。こひおふまゝふかうとゝびまう

○かうと

二　石見野なる角山乃志のまゆゝ恋ゆゑ事なる所いもえきん　うと

十六　かつらきてえんと思ひ一夕ゆゑ秋萩をこそ花咲かをん　うと

八　味雪うゝふゝえて咲る梅花ゆゑ見るとやゑでよそへてん　うと

こゝハ上のらんうをんうをゝ四ようるて
下へ引ものそうゝなる

○ぬうと

六　人ゝ多の命をいとゝもみよう堂の淵のとこいしの者きう　ぬうと

七　ぬゝゝ高社よりいつる月をうゝ雲ん水面乃山べり寒ゆう　ぬうと

八　七月の花のそんゆゑ社つゝひあとおりふこゝろきゝてよ　ぬうと

こゝハ上のぬうゝ月ゝて下へ
うゝハふゝふゝとうゝるまう

○ろかうと

三　清の形りしをまひふるまひいや日をふゝうゝ姫ゆゑれバかはしき　ろうと

五　神なかうゝむさびいまゝうゝみゝ毎今清をゝたゝふゝき　ろうと

ろうゝとハ。ちる紙夜神。長仁海。長雄。日本紀仁海。雷ゝる歌ゝと有

○右のかふ　花かうと　ロの花のかの於ふふ　こをぬうと　トのうをの條ゝる歌

○ぞ水無ふかう

ロ　あゝてはゝぬぢこゝふあるう　小山田の苗代ゝる社井清ゝて

十二　むがつるのたんといつきし[illegible]有[illegible]あつる時さへおもがるまじせまと

式部八三の句[illegible]まとうたよりむべしゝ。り[illegible]拙[illegible]ときハ。催ちまバあちこちふるるれど。

かるぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]

○あかつきをやをそ鶯の志のびこゑ。まつ緑まさるこのもとにうくつらひ
しらぬ。うつ中六條のゐんとゆふ桜あるハ。既ゐ五のよもの志乃紅り出せきハ
さくまさて。ゆきゆ冬ゆくで志ら素よりあるとゐハ見しさる桜あるかぎりを出せやと

春ハ志ぬなゆ　一ノ　九六　かりつるゐ〜おりゆ　九　ゐ〜ゐ志ら〜を　二ノ十

山ゐ〜ゐたゐやゐ志ゐかゐ〜ゐ　やきかゐ〜ゐ　三ノ　九七　ゐ〜ゐ志ゐ〜　九九

川〜ゐやき〜　四　白ゐ〜ゐゐ〜ゐし　四　ゐひゐきゐ〜ゐ〜まゐゐてゐゐ〜　四

おゐゐ〜ゐゐゐ　四　十三　非〜ゐゐゐん　四　九六　桜引山の方に〜ゐゐ〜ゐし　四　九八

ゐに〜ハあゐんを　四　三十　美ゐ〜ゐゐ　四　四　ゐゐゐ〜ゐゐハやせぬゐゐ〜ゐ

〜独さへぬきぬ　四　四十九　ゐゐゐゐ〜白ゐ〜ゐ　四　五十九　まつとに〜ゐゐし　四　五十九

いをゐ〜ゐん　四　十一　琴ゐ〜ゐべ〜　四　十二　ゐを〜ゐ〜ゐん　四　十三

ゐへ〜神代ゆゐぐめきゐしを　六ノ十　かゐ〜ゐゐ〜ゐを　四　十二

ちゐん時ゐ〜ゐてたむきん　四　十四　妹ゐ後〜ゐゐゐゐゐかゐ　四　十八　ゐゐゐ〜ゐゐゐん　四　十五

おきゐ〜ゐゐ　四　十三　あゐ〜ゐ〜ゐけゐ　七ノ十一　おゐひ〜ゐへゐ　四

ゐゐ人〜ゐゐゐゐしを　四　十七　ゐゐゐゐ〜ゐゐ〜ゐを　四　十二　今〜ゐゐ〜も　四　十三

ゐゐまゐ〜ゐ〜ゐゐ〜ゐし　八ノ　四十三　美ゐ〜ゐ〜ゐ　四　五十

今〜ゐゐん　十ノ　九　ゐゐ〜ゐ人も　十ノ　九八　ゐゐ〜ゐゐゐ　十二ノ　十六

母〜ゐゐゐを　四　十七　桜のゐ〜ゐゐ　四　十三ノ　九六　ゐゐ〜ゐ〜ゐ　四

ゐ〜ゐゐゐ〜ゐ　十六ノ七　ゐゐゐかゐ〜ゐゐん　十七ノ十九　ゐゐ〜ゐゐん　十八ノ　九八

ゐゐ〜ゐゐてハ　四　九八　ゐを〜ゐゐ〜　十九ノ　九八　ゐ〜ゐ志ぬゐも　四　十九

ゐひて〜ゐん　四　九八　今〜ゐゐ〜ゐを　二十ノ十三　ゐゐ人〜ゐゐゐゐかを　四　四十五

[illegible]

大くこたのおくゝ。我これをまと花のかり

又二つまゆゝうハ

今〳〵[illegible]

十二の表十二の和〳〵に号ゑ[illegible]

又十九の表九の和ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

○志[illegible]

[illegible]くしくそ　くべしくそ

な

一　あさ山乃ゆきしく〳〵つもれつゝまれてなりふ　な　こせノあさをを

二　大ふゆ[illegible]れりひ秋み〳〵ゑぐひなば[illegible]そこひん　な　うぐに[illegible]とふ

十　秋をぎのちゝ[illegible]ゆゝは[illegible]を[illegible]をびるきせん　な　[illegible]ハゝり〳〵み

七　[illegible]くぎ次あ[illegible]ちの[illegible]ゆきてゐで[illegible]ハちん　な　[illegible]

一　梅[illegible]ゝもこゝ[illegible]ぞ[illegible]ゝ[illegible]ちゝしゝきん　な　[illegible]仮やゝそ

七　[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]きこえん　な　いゝ〳〵世[illegible]儀[illegible]ゝ[illegible]ふてゝ[illegible]ゝ月歌を

○[illegible]んの[illegible]な

[illegible]きてゝ[illegible]やえな　[illegible]　あそびゝ〳〵さな　[illegible]　志船をゝ思へど　[illegible]

いな[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]な　[illegible]

いざぬまこな　[illegible]　[illegible]ハやらな　[illegible]　[illegible]風まゝりせな　[illegible]　[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝぬまこな　[illegible]　[illegible]ゝめえてみぐまこな　[illegible]　いでゝ[illegible]れゝいゝな　[illegible]

[illegible]ゝてゝつをな　[illegible]　[illegible]ゝりてかぐゝな　[illegible]　[illegible]ゝもゝ[illegible]あをな　[illegible]　[illegible]ゝつゝ志ぬぐな　[illegible]

[illegible]ゝをゝゝな　[illegible]　[illegible]ゝふつゝゝおな　[illegible]　[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝれゝな　[illegible]

[illegible]ゝむゝゝびゝな　[illegible]　[illegible]ゝ[illegible]かりゝな　[illegible]

[illegible]ゝふむゝゝむゝな　[illegible]　[illegible]ゝハふりゝな　[illegible]

[illegible]ゝゝゝゝな　[illegible]　[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝ

仁徳紀の記日本紀のあるとこりゝいづれも皆んと日さこしてあハてんあゝハをんしとき
まゝいこゝ説たあるとゝ皆がなゝ也。こゝでおをんゝ久へてなるかおゝ。但ゝ一ん。そこゝの
らのゝかもゝ又他のゝへをゝ赤をゝゝてゝ其を什おハゝでゝゝゝ

み。老このゆりをハ岩もぞろ〳〵。けろみどハおとふ老づりし

○加を上りおくるゆりかやも〳〵　かぐろ〳〵　かあを

○たを上ふおりる有　そをたらゝこ　十七ノ二十　たもをほり　十七イ八　ロ廿六　ロ廿四　日二十三　日卑六　十八ノ七

けたハ。そもゝ〳〵たるゝれてなどふたと一つれ。又田のをこそもゝべし。田そ

だむゝとゝろゝきて曲て　ゆく〳〵のをゝり。運生物字などをゝし　ろゝ。

こゆく。ゝあをゝるをゝなどおゝ〳〵ろ

ぞを畧く　接

あをゝや　あをゝや　こゝをゝや　ゆをゝや　ゝをゝや　のをゝや　をゝをゝや　おゝをゝや

ゆるせゝや　ゝろ〳〵せゝや　ゝをへゝや　こをゝハ上のゝやの條ゝも出るゝこゝばし

みるゝやの上ゝをゝを加へゝ合ゝべし

おゝり〳〵ろ　ロノ十三　ハノ十七　ゝをへゝゝと　ロノ十七　日ロ　十二ノ十三　ゝをゝけゝゝ　わゝがゝをゝのゝゝてゝだゝゝきゝ

こゝふをゝゝゝゝと　十三ノ九　ゝをゝのゝいゝをゝひゝまゝゝゝゝねゝゝゝ　十六ノ十三　あゝをゝゝゝと　十六ノ十七

ゝゝをゝゝハゝのゝ上ゝりゝをゝを加へゝて合ゝべし

ゝをゝのゝいゝをゝをゝゝゝん　十三ノ八　こゝをハかのゝ上ゝのゝをゝをゝゝゝゝゝゝと畧ゝを老づし

ゝをゝひゝがゝこゝふをゝゝゝぞ　ロノ八　ハノ十　ゝをゝをゝゝゝゝゝゝ

らを畏く格

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○えらん　[illegible]

[illegible]

とゝ[illegible]ふえ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よゝ仰ぐる者

二　秋日てるさゞなみ　を
七　ちゝを　を
十三　伊しの山より　を
月　とがへのちゝ　を
二十　あゝ　を
三　老の　月　を　かさが　を
十　本つ人　を　を　を
十一　をとめ　を　を
月　を　を　を
十五　いのち　を　を

右の歌は略して　よりて　月ド　の歌　土の　歌　を
こゝ　こゝは　吾　月ド　歌　土の　歌
よに　を　月　土の　歌
を　を　を

みよ　ふかる

十二　ひとべな　かる　ひ　やき　を　を　を

秋ぞ

四　法ゝ踊のいまさもこ　秋ぞ　ゐつゝかぐらあゝぶる元をえるぶかるゝさ

月　えまゝ　ゝてゝいまぐ時ぐふゝゝ　秋ぞ　七月のごとたりわゆゝきゝ

八　嘉雷もいまぐもぐ　秋ぞ　かりそぬゑ嘉日新星ゝゝ光の色えつ

月　和花もいまぐさゝ　秋ぞ　ほゝゝぎけ佐伯の山べをきをきそよりと

月　秋ゝゆちていくゝゝ　秋ぞ　此秋ゝ　新ゝ新風ハたりゆゝ来ゝも

月　秋田かゝかりゆ安いまぐこゝぐゝ　秋ぞ　ゝとがひ来ゝ　まもおきぬゝぐふ

月　とが安ぐ新義の下葉を秋　秋ぞ　もいまぐぬゝ　秋ぞ　かゝぐぞりみぐる

十　一ゝ七ゝ七日新東のゝ　ゐつふ人ゝ嘉やま　秋ぞ　よハふけゆくも

月　天川あゝやゝゝゝゝ　嘉ゝゝゝ　秋ぞ　よのふをぬゝゝく

月　秋ぞ　ぞのちひも法き　秋ぞ　ゐを嘉の安いつぎゝく来ゝそまゝれ

月　ゐつき山乃ゝのゝをもいまゝりみぐゝ　秋ぞ　ゝゝさふゝ　ぬハもれもおきぬべゝ

月　まゝむゝの花嘉もいまぐゝをもね　秋ぞ　小松がうれゆ法を　ながゝる

十一　人安ゝりよびふゆきて　ゐゝがをもいまぐゝゝ　秋ぞ　ゝゝよぞ時ふゝゝ

（此秋ぞハ法ねふゝゝふゝゝ。古今集ぐゝいふゝゝゝゝ。）

十　ゝねそ老ていくゝゝゝ　秋ぞ　白妙乃華ゝゝふべゝゝや法ひもやま　秋ぞ

（此ゝハ月ゝゝ　秋ぞ　ゝゝいまぐれゝをふゝ老ゝ

十の巻　六十八の和ゝにゝみちぐふ木ゝ法嘉の色ふ木ゝ法ゝもいでゝゝゝ

きゝ。此　受ゝゝ　秋ぞ　ゝの秋ぞゝゝ月ゝ桜ゝ）

二　かゝぐばゝゝゝひてゝゝ　ぞば　ゝゝゝゝゝ山のいゝゝゝまゝ老て老ゝゝゝ

月　おくをぬて走つて行く　ぞバ　おひもうんさけくるふもえゆくとが芳

月　ものをとふ走つて行く　ぞバ　秋萩乃咲てちりぬるもひにあらまを

三　中くにり人せ行く　ぞバ　酒童に成をしがしねふしみなん

四　おくをぬて走つて行く　ぞバ　其れ出の嫁者のひみあらはゆ一枝を

月　かくばくと走つて行く　ぞバ　岩本に乱れ咲まり枝を抱をしがて

月　よをふぬて走つて行く　ぞバ　走が家れ酒ふをもひちの鴨よ行くほを

月　夏がもひかくて行く　ぞバ　ゆりをが倍こくも嫁ゲまに来んなん

十　かくばかり走つて行く　ぞバ　秋の月に嫁が家むんつちふあしほを

月　わぎりとに走つて行く　ぞバ　かりこもれ思ひみぐをて忘ぬべきりのを

十一　中くに人と行く　ぞバ　くくくふもなりほし抱を。かの袖ばかり

月　花くをぬて走つて行く　ぞバ　たごの浦のあるれくまり城玉葉かるく

月　いつまでにいりむ山のちぞあれくハ走つて行く　ぞバ　忘れるまるれと

八　秋をばの人ふあきくるるもくるまし走つて行く　ぞバ

十　あき萩乃枝もをくにあくれ行四の夢れもまるほし走つて行く　ぞバ

月　秋の穂を忘ふあしをべあくれ高れ夢れもまるほし走つて行く　ぞバ

十一　待るぎぐちりうを結ふ人よゆき物をて忘せうもを忘ん走つて行く　ぞバ

月　をみのえれはちに行ぞきれくうけのをのくかをゆうん走つて行く　ぞバ

月　小倉のきよをする俗乃あり秋にもに行く俗一枝を走つて行く　ぞバ

三　をくくれき酒をおりて　ぞバ　一杯のふごまくの酒をのむべくに行くし

六　花くをぬてをぐこひせ　ぞバ　浮雲生れくくえの岩ふもなくほし抱を

八　ふくさがき　黒ぬりさや　ぎバ　ゆり　ねぎ　ぎ　ぎ

十一　なうく　にんそうこひ　ぎバ　えの　ゆ　ぎ　ぎ

十　ぎ　ぎ　ぎ

十一　今ぞふる月をまちつゝ先そこひしぞて恋ん年月久〳〵

十九　玉垂の緒をかたらふふるゝ行ぶ〳〵明神をかたらふまちてかゝこを

[を]まくに　[を]めやを

[あそ]　[あさと]　[あせぬるを]

あるゝのををかたらのをそ。[illegible]きをの[illegible]をまくハ[illegible]

かゝるまくしこ。かゝしこをめやをハかゝ〳〵かゝ先やをそ。をかんを[illegible]をんくらを月橋

美に[illegible]をそ　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

四　佐保川のきしのつくさの小暦あかりそをつゝ張之事者立隠　かゞよ

十　梅花ちるまでもちゝ冊よりなゝ形る人乃きゝつゝ　かゞよ

日　ゐもちだみのおもやゝ城ゝ之ん郭ゝ江に色まで染ふ　かゞよ

日　伊しゝ引乃山田つくるゝ乙でゞゝもあぐふそへとめるとある　かゞよ

日　あきつねゝふれて衣ゝれハきゝ　春　ゝまでさばよゝもきゝ　かゞよ

日　雪ちもゝはきゝハさかゝをゝうめ新年ゝ伊ゝ　かゞよ

十八　ちゝ玉城つゝみゝやらバ伊や色花ゝちやるふ伊へもぬゝ　かゞよ

十九　はゝぎ伊きけを伊ゝをあゝゞりにゝりてをつをかゞびをゝ　かゞよ

十二　生人とかゝり法ぐ　かゞよ　ゝ　あゝゝ　ゝ　ゝもゝん　ゝふゝめや

又　ゝゝゞ　ゝふいひつゞ　かゞよ　ゝゝ

十七　おゝくのゝとゝのゝも安てゝりゝ　かゞよ

八　秋田かゝるゝれゝとゝいまゞゝねゞかりゞよ　ゝ　ゝもゝきぬ　かゞよ

十八　ゝゝゝ　ゝ　ゝ　

上伴がはハ中芳の云ふ。きさたがよ場がよ むこがよ 婿士がよ をどいてがむく日ど
くて。かよてを料 よまゝ きてまゝ きこゝ。又ぐふを ぐよふこゝ。孫よをつど
来て ふといてをり。ぐよともそゝ日ごゝこゝ。さて素中 低空去の例。とる西よハ漢
者の我 まをうけまバ。かをゝびふごるべき 辞をゝ

さね

加やをかゝさね 一ノ 十一 あがゝのゝさね 八ノ七 九ノ十八 秋萩の花をふゝさね 十、 六十六

たゝどゆゝさね 十二ノ 四十 ぬ孫てゆゝさね 十四ノ 十 むこむさばさね 十五ノ

せをゝ法まゝさね 十六 袖をふゝさね 十七ノ 三十 玉掛ねゝさね 十八ノ 四九

ひふをゝさね 十九ノ 十一 さうえいまさね 二十ノ 十二 勝川きゝさね 二十一 四十

おやゝまをさね 二十ノ 三十八

此さねハ。まゞ萱をかまといふすを。かり孫をいふ。孫ハ後のうをとよむて。こゝて。
五の光の孫の数ゝ。出せれど。こゝ。ハ出さぞ。さて又ゝ例ををたゝ。ハかゝ世とを。
いふ。まのかゝ世を。のかり孫の例のごゝに。孫を係ていふとき。ふかゝさをとるかゝ。
俗もこゝををどゝへてゝきまふゞし。他ハバさハ世のをゝ。ゝ言。孫ハかりねのりね

をどいふ孫ゝ日じゝてきねゝつきゝ。一つの辞ハ行ゝされども。かゝいふ例ハ古今
まゝをゝこをゝこをハききあふこゝふ例ゝ。

そ孫

塩干をけりそを 二ノ 四十三 紫べの秋をぎをちりそを 四十四 紫をかるそを 七ノ 六十六

西をふりそを 九ノ 九 をふゝそを 十ノ 四十五 雪をゝそを 十ノ 四十一 雪をゝ惜そを 四十四

をふをそを 惜 四十七 信をさんそを 二十ノ 十九

こゝハつをよハそゝのをいふ所を。ゝ下に孫を係ゝる。
未詳ゝ。難しゝ。

西をふり行年 三ノ 四十三 風をふき行年 七ノ 四十 太をゝえ行年 十三ノ 十六

をゝをゝの行年を。今の布ゝハをゝこゝ。他ゝこゝを行年ゝ云る例なく。
又上ゝをゝいひて。こゝをゝ法ゝ例も他ゝをゝれど。行年ハ決てこゝをハゝゝ。
挙ゝをゝこゝの様ゝ。全ゝ日ゝれバゝをゝ。必ゝ訓べきも。行ハゝ所字
をどの語ゝをとやゝゝん。文をゝ法ゝハいをゝいふを。ひえをゝ

ゝの

四　月がりくる三おふよわる糸りちて法きてまう〜 [りの] 今ぞ悔〜き
五　りのまちぶや石うえとがをやみをまでおくりまをしてそびう〜ふ [りの]
　　こきくのりの八。ものきといふきこ。京ゆ沈履屯候。ふるよりもちてこまう〜とのゝ雄
　　器候、京ゆ[illegible]もいかちとがこまきをゆるりの。こ[illegible]ゆ月ど
十六　そちすす繁はかく〜そいる [りの] おきまろが赤ゆ。掘さう〜この繁まあう〜
四　るにこをふりぐ〜かく [りの] 牛ふ〜も鼻縄たぐこう〜
　　おきくのりの。そのきとらふきう

[おて]

三　より豊ゆる文箕の伝の川 使う〜 鳴ぎな〜ゆる山陰う。 [おて]
四　みどりごは[illegible]ひさりちうにたきよひふにのくぞこりがを志を う。 [おて]
四　おとでーハるがこふいるふ山田は 苗代ゆは水ぎう。 [おて]

十五　いせの海人乃ひうさをゆふかづくちふにちびの貝はかくもひふ。 [おて]
十六　ゆろもう〜 [illegible] ゆてちろのく蛛ぐをやまてはこ〜ふ。 [おて]
　　くきりの中て八。ものと
　　ふきとう生まう
三　おりこひいくとをべきこ[illegible]ーーーづの孫のくーゆる粉よひふ。 [おて]
十一　おろゆへ乃ゆがゆろとでふ者ハおきぬ蛛ゆたにちびふ。 [おて]
三　みちのくは吉豊のをやゆ糸ゆけどもあも新ふ。 [おて] ゆるゆろふりのを
八　西をわくきようてりーる此月秋又さ〜ふ。 [おて] 幸ゆたまびき
　　らわ〜ハ〜ど ふといてたにてあたゆを。おてハ係〜ゆるぐ〜ゆる

[おく]

四　秋のかぐろゆが出てくをバわぎとこが見つり [おく] 〜おもかげふゆる

七月　今　志く　きえめやと思ひ　みよしの山川　波をいふ足つるかと
位のえ　ふ　名のそなべ　ふこるをべく　おもひ　拾　志く　つよ　志く　えぞ
月　ものせと　波いづちゆう　見と　ときに　外のそびよ　孫　志く　今　悔　も
八　秋の　世　を　ながら　れを　おしをべく　こ　志く　もう　ゆへる　志かも
十　あひ　志く　ものを　あげ　れ　ものを　今　ぶ　ふ　ふ　ゆ　む　べ　や　を　べき　秋　ぶ　ふ
二十　ふ　川　者　は　ふ　を　に　ふ　ゆ　志　を　ち　ひ　志く　志く　の　お　か　る　ふ　ハ　ん　つ　志　ぬ　ぞ　ん

十二の巻九の訓に唯毛と行るを。たぶ。しく。訓は此所ばかりなる。
志く心。應神紀ちよ孫しく。紀乃間方とあるこの志紀もうくの志くと考ひてきこえたり

ほ星

月　秋　六　門　て　出　ゆ　ち　ゆ　ふ　ち　ひ　ゆ　し　ん　を　ぞ　を　ゆ　ま　く　を　ほ星

ゆ　ち　ち　ゆ　ま　ち　ん　志　が　光　を　ほ星
山ふ　おやのめをほ星　波　の　ち　を　ち　り　縁　が　光　を　ち　を　ち　ぞ　ま　ち　を

く

三　り　し　紀　の　大　志　人　乃　ま　ぎ　ち　ん　ふ　ふ　ち　の　白　き　ん　年　の　ち　く　ち　く
四　い　た　ま　ち　く
七　神　熊　川　ち　く
八　ち　る　山　の　ま　ち　く
十　ち　ま　ち　く
九　あ　し　川　の　山　の　ち　み　ち　く

こ　ま　て　し　上　ま　の　し　ち　ひ　し　く　。
此　板　原　中　に　ち　れ　た　ち　し　し　。

二　みよの里は山松がえハもゝ〜ねうと云ゞ陸ゝ云詩のちてかよせ　く

三　ゑゝ〜させぞ　ゆ　ゑのゝ〜たりゆゝ火のほるぞかぬる妹よゝ〜ゝ。　く

十　いのゑ見そぐあゝ〜ゝんこゆゑ玉のをゝ也ゝ玉ゝ玉日をありひゝ〜さ　く

十一　あ〜ゑぎきの山回りるをちがゝく　赤火のゝ下こゞれのゝ〜ゑゞこひをゝ〜　く

十二　芝中〜〜ゝ〜ゝたりのゝふ有をゝ〜　く　ちひゝ〜へゞて　乳ゆへき見へゞ

十三　春ゝゝあをいやゝ〜れ　ふゝふゝ見のをいをゞさゝる　く　いとゝうゝかゝを

　　ゝ五ゝ〜ハ上ゝのゝ　ゝいをゞゝ〜ゝ　ゝくゝ　ゝゝ

らく

あゝ〜　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

いゝ〜くゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

十六　あゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

十七　ゝ世ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

十八　ゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

十九　かゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二十　あゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二十一　ゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二十二　ゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二十三　ゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二十四　ゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二十五　ゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二十六　ゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二十七　ゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二十八　ゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

二十九　ゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

三十　ゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

　　いつまゝも百を延てらくといふゝ決ゝゝ百ゝ

あゝらく　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

十二ノ十四　たゝ〜ゝ〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

あゝ〜ゝ板本ゝ刊を選ゝ。あゝらゝをあゝりゝ。ゝゝゝゝをゝゝすゝらゝ。ゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

三

角はそもいかなるものぞ波和さうびゆききん人の思ひつゑひ[きまく]

そこ〳〵まで代りたえづとおりひてかよむきん[illegible]をバこゝ〳〵

ひきまくバきんとゆふことゝ。思ひつゑひきんざうハあしくゝ。その思ひしるきをいひつ

ら絲で。かくのゆくゝして義我の義ゝ思ひて思ひきんとゆつゝ。まくとんと日ことゝ

十八

そもゝ此よゝ其のつゝみことゝ行きよひふゝ者ゝ者ゝびもうちなるきき

かゝらり[きまく]そゝゝ

こゝもきまくハきんを其ゝ[illegible]のきまくと日ゝてゝゝむへゝうゝ。ハ久字を

ゝをバ。りゝくハそのゝ[illegible]ゝ。これもきまくにてをゝゝんゝされとむを迎てまくゝ

ゝをつよゝをバ。きまくゝそゝとゝゝゝたし

文章の部

○てふをはゝゝ高ゝゝのゝとのゝんゝそゝゝぬ何文ゝゝごまれるゝゝのへ

ゝとゝもなゝ紙ゝゝ思ゝゝ[illegible]ゝ人のかきゝ抽をゝゝふゝ[illegible]ゝぬゝゝのゝ

おゝかゝゝそゝゝ此ゝのへゝ。ゝのゝにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝよ

ゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひをど。おとぐ〳〵この所ごまをと用しおと。はべりしを法くべきものあり大とひ文章をぐ〳〵ことぐ〳〵しくいふだりはおまと行くで仏と書くゝぬぐはるふ一そぐりかゝむ之の業ありとも代てふをはだりハみだりふ世べきにあゝ次はいとゝうとしたがてるやゝ天ゝしるハその人のおかゝ年乃。大りゝこのつゝとをさ思ひたかゝまて仏おとりせゝ後くハそげかゝ光るざあゝまやかゝていま此ゝゆをらゆふまづ学る花文まハ延喜式の八の巻に系図載せゝまゝゝるゆろくの祝詞まゝ續日本紀などの時代ゝゝの宣命の初などのゝまゝるあまゝゝとるゆに古ゝがひて。初の巻ゝまゝそゝりぐゝにふゝあゝゝられてふをそのゝゝのひゝりゝゝまを形るゝゝを見ハ今別ふハ出まぢゝゝで本の京ふありての歌の系の序詞を

ゝべきなど又拾遺日記などに一つ二つ引出ゝゝたひひをさゝゝゝあぞ。

古今ゝ系序

ゝゆけきりのゝゆのこゝろを引おぐさもゝ　そこゝゝ　おゝ

ゆゝゝゝ行ゝゝ行ゝゝ　を　こゝろあまりておとをゝゝゝ　ぞ

小野小町　た　いゝゝへの衣通姫の流　おゝ

大友黒主　た　そのさゝいやゝ

こゝま　た　ゝゝゝ人も身をゆそせゝゝゝといふゝべ

紀貫之　も　かゝのぢゝ形るべ

玉地のゝゝきをぐまりゝゝ時よりゝてきふ　ゝゝ

ゝゝゝ山部赤人といふ人あり　ゝゝ

ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

又をさうふの日記より。[illegible]

今の世は人の文にてかく世をふけるのみ。[illegible]

辞もみだりにそとのくぬぎあやきハいふぞや。おきなろのしるべとハ。[illegible]

[illegible]

又侍のそばにふかくるゝとこりの。[illegible]

[illegible]

ふけ板をふあり。[illegible]

日本三の物さし書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

才二段 西の京に女ありけり。[名]その女、[名]そ[名]まさもり[名]その人、[名]ぞ[名]
ようハこころ[名]ざん[名]まさもり大[名]

山科流の文字を。[名]ぬ[名]ぬ[名]ぬ

らへ〻よきせ　八分

此かうかるもの。なのかるゝ日ど板そ。そ〻かゝるかゝる。男しいとこしさそしまと
よませ　八分八分るをとゝ八分るふとゝ。ゝ下へ辞を添てんかゝる板し八分るがゝ。ゝ
え見バ。伝よハんはやもゝ。此板もつよにあることし業武戸東系にそやこゝろらゝハ
友〻ゝ板りゝ人よ身ごろへゝ。ゆきひひゝるほのゝそ十月十日はわゞ月ふきか
むてゝりに八見バといふ。此間きひんゝ。やもゝ。がくのめきあをゝの人をゆがゝいあし。花こ
ある。くるゝとがを先て見バ先ゝ。ゝををふたいそもゝ。てゝで小波の波へいいゝ。ゝ板
ゝもゝらゝいひてハつゝるゝ。ゝ。ゝ。

件の格子とハ。人のつまゝ語ることゝ。
まの後しりもち〳〵日ごとに。〳〵。〳〵。〳〵

くもるれまへぞ〜てあやぢるふん是べは。きら〜しきらつふり。さら
ゐぐひも。みるこゐふくをつをて。ら〜ゆきまへてるるきバそ〜のへのさう〜
いとよく〜ゐうきてさべる〜てふをはのみぐをゆるこしバそきし〜ゐきし
○いづまれ書にも。りとるとバ上まで沙てゐる所をきの形のよく似さ
ふるる。ゆえまぐへる〜たぐひふ是 〜ゐ所まわるゐ行ゆき沙。そめ〜てこん
そば。ゐ〜ゐがひゐきゐんめめぞ。

上牌 古を素士右日化いせ絶代係武強ゐ〜ゐ〜ゐ井化。この巳
ゐさの物〜ゐ〜〜と引出〜ゐ〜こ〜バ是べ〜ゐ行但ゐ先て〜ゐ〜又結ゐ
人のめゐ〜〜ゐ〜ゐれつる物ゐ是バぞ竹。さて又此書ゐを赤ゐ〜
ゐ物てハ拳つまぞ〜ゐ〜〜ゐ行ゐ物をく〜ておの〜〜ゐ〜ゐる物

ゐはあ〜〜ゐいづまの物〜ゐ物ゐ書ゐ〜の〜を物〜〜〜ゐかゐ〜ゐ物ゐて
ゐを書ゐ〜ゐ〜ゐ〜

諸國發行書肆

東京日本橋通一丁目	北島茂兵衛
同　通二丁目	稲田佐兵衛
同　芝太神前	山中市兵衛
西京三條通堺町	出雲寺文次郎
名古屋本町七丁目	片野東四郎
同　四丁目	矢田藤兵衛
加州金澤保江町	近田太平
同　上堤町	中村喜平
播州姫路俵町	伊藤和七郎
防州山口	宮川臣吉
雲州松江魚町	大芦利七
豐前中津古博多町	梅津壽平
大阪心齋橋通博勞町四丁目	中川勘助